

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392900031		
法人名	株式会社 信樹会		
事業所名	グループホーム 城山の杜1丁目		
所在地	〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌15-5-1		
自己評価作成日	令和6年10月17日	評価結果市町村受理日	令和6年12月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhvu
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和6年11月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた静かな環境でアクセス状況に恵まれている個々のペースを尊重しながら支援しており、午前、午後のレク活動を通して笑顔で楽しく生活出来る様に工夫も行っています。 24時間体制で医師・看護師と連携しながら看取り介護を行い、最後までその人らしく過ごせるようにしています。理念も『支え合う、優しさで笑顔あふれる幸せな人生を』と改め、目標も『入居者様の自分らしさを大切に。』『ご家族、地域、医療、福祉の繋がりを大切にします』『サービスの質の向上を目指します』と改定した。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2ユニットのグループホームであり、それぞれに1日を過ごし、職員も基本的にはユニット単位で活動している。避難訓練や夕涼み会、敬老会などの行事や運営推進会議は合同で行っている。コロナ禍で運動不足や外出の機会が少なくなったこともあり、利用者の心身の低下を防ごうと午前、午後のレク活動に取り組み始めている。地域との交流を増やしたいと、幼稚園に声がけをして事業所で初めて歌やダンスを披露してもらうことになっている。町で運営している認知症カフェにも利用者と一緒に参加したいと考えており、今後地域とのつながりの深まりが期待される。利用者の幸せを意識し、希望することを叶えたいと、それぞれに合わせた支援に心を配る職員に支えられ、利用者は穏やかに暮らしている。利用者の健康管理面では、看護師が24時間体制で配置され、加えて看取りにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜1丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考え、いつでも目に出来る様にスタッフルームに掲示している。	2年前に見直した理念とそれを具体化した運営目標を意識しながら、職員は利用者の希望を実現出来るよう努めている。ケアプランには利用者、家族の思いが反映され、その人らしさを計画的に支援している。運営目標の評価が難しいと感じており、今後は達成度を評価できる具体的な年度目標を作りたいと検討中である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は包括支援センターへ「認知症月間」の作品提供等を行っている。行事等を通じてキッチンカーでの食事の購入等も行い、外部と交流出来る様に努めている。	大槌祭りの虎舞を玄関先で披露していただき、利用者の中には喜んで涙を流す方もあった。夕涼み会や敬老会には地域の方がフラダンスを披露していただいている。傾聴ボランティアは毎月2名ずつ来所され、利用者の話をじっくりと聞いてくれている。また、職場体験で中学生の受け入れも行っている。近所の方から野菜や新聞紙などの提供も受けている。	地域との繋がりを更に強めたいと考え、近くの幼稚園に声掛けをして園児に歌や踊りを披露していただこうとしている。今後は認知症カフェに利用者と職員が出かけながら、認知症ケアの拠点としての活動にも期待したい。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を活用して地域代表の方々に認知症の症状を説明して理解を頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告書がいつでも目に出来る場所に有り全体会議や各丁目のカンファレンスでも話し合い、意見を取り入れている。	運営推進会議を2ヵ月に1回、職員、利用者、家族、地域住民代表者等が構成員となり、ダイルूमで開催している。事業所や利用者の様子を詳しく知っていただこうと、生活の様子や感染症の様子、ヒヤリハット報告など細かな資料を準備して望んでいる。事業所が地域と深く繋がるための情報収集や災害時の支援体制の確保に向けて協力をお願いしていきたいと考えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等への出席や感染症対策・対応等について相談、コロナワクチン接種実施等、密に連絡を取り合っている。	地域ケア会議に出席し地域の関係者と情報交換している。生活保護担当とは電話で連絡を取り合い、町とは要介護認定申請やその調査等についての連絡も行なっている。感染症対策や防災対策においても、各担当者と連絡を取り合っている。身元引受人や親子関係等については、地域包括支援センターに相談している。台風等の災害情報は町から電話で受けている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜1丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な全体研修や個別研修が有り、拘束をしないケアを努めている。施錠に関して、やむを得ない場合を除き、開放してる。	身体拘束に関する委員会を3ヵ月毎に開催し、拘束の有無を確認し、また具体例をもとにそれが身体拘束にあたるかを検討している。無断で施設外に出てしまう恐れのある利用者については、行動パターンを観察して対策を考えるとともに、付き添って散歩に出かけるなどしている。利用者の意向にすぐ応えることができない場合には、その理由を説明したりあと5分待ってくださいと伝えている。玄関は夜間のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な全体研修や個別研修が有り、個別での研修時は報告書や全体会議で周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等もあるが、制度について理解出来ない職員も居る為に、全体会議を通じて、ケアマネに分かりやすく講習をして貰う予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にケアマネが説明しておりいつでも相談出来る様になっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用料支払い時やメール等で連絡を行い、要望は全体会議やカンファレンスで検討し、反映している。	家族には城山通信を毎月送り、併せて利用者の様子や必要となっている物などをお知らせしている。メールでお知らせした内容への問い合わせを受けることもある。共有空間のテレビの高さが低いと利用者から要望があり、テレビ台を購入し直したこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議を通して意見を聞き取り、反映できる様に努めている。	管理者は、毎月の両ユニットによる全体会議やユニット会議で職員から意見を聞いている。会議では、ケアの在り方や飲み込みが難しい利用者の食形態などを協議している。パソコンの増設や職員の資格取得費用の支援も具体化されている。勤務内容についての相談は、管理者が受けて社長に伝えている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 城山の杜1丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リフレッシュ休暇制度を新設して、勤務シフト表を作成前に希望休暇確認を行い、いつでも有給休暇、リフレッシュ休暇、公休等を取得出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得機会や外部研修への参加機会を設けており、外部研修時は研修報告書を回覧して参加出来なかった職員への周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等を通して交流出来る様に行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	就寝時や、入浴時等でコミュニケーションを行い、要望があれば職員間で共有し、不安な事が有れば傾聴する様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネが家族の不安や要望を聞き取り、職員間で共有して、話し合いを行いケアに反映させている。家族来所時やメール、電話等で依頼があった際は、その都度対応し信頼関係構築に努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネが作成した介護サービス計画書に基づいてケアにあたり、その後はユニット会議で居室担当職員が中心となり、話し合いを行い、その都度、支援内容を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人が出来る範囲内でお手伝いを行って頂いている		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜1丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、城山通信を家族に送付して近況報告を行い、通院時も家族に対応協力をお願いしている。緊急受診した場合は、電話やメールで報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族対応・職員対応で今まで通りの美容院へ通ったりしている利用者様も高齢化してからは減少しているが、本人の希望があれば支援に努めている。散歩を通じて近隣の方々と会話する機会も有る。	現在、家族との玄関先での面会は可能としている。今まで通っていた美容院に家族に連れて行ってもらったり、買い物に出かけたりする利用者が数名いる。馴染みの近所の方が服を買って訪ねてくれたこともある。事業所の近くの家のお花を眺めながら、親しくなった住人の方と話を楽しんだりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を把握して座席替え等を実施している。レク活動やお手伝い等を通じて良好な関係構築出来る様に支援に努め、トラブルになりそうな際は職員が仲裁している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ケアマネ中心で相談があれば応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の想いを共有出来る様に、カンファレンス等実施して、支援出来る様に努めている。	居室担当は居室の整理や足りない物の把握をして家族に連絡をしている。どの職員も利用者の話を聞くため1対1で過ごせる時間を作るようにしている。自宅に帰りたい、おいしいものを食べたい等の話をじっくり伺い、介護に活かしている。意向の表出が難しい方には行動や表情の変化から推し測るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時情報を基本に、本人・家族より聞き取りを行い、共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録を閲覧している。職員等もいつでも閲覧出来る。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜1丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ中心となり介護担当者とアセスメント後にユニット会議で職員が話し合い作成している。	本人、家族の意向を丁寧に汲み取って介護計画に反映しており、動きのあるプランとなっている。居室担当や看護師、計画作成担当者等で担当者会議を行い、モニタリングをもとに計画を作成している。本人、家族に直接説明し、家族の来訪が難しい場合には郵送している。計画の見直しは、6か月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に記載し、ユニット会議でも話し合いを実施しており、計画見直し・実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態に合わせた支援に努めている。事業所としての取組みは出来ていない様なので、今後の課題である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	段ボール回収・傾聴ボランティア等の活用を実施している。他サービス活用も今後の課題となる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者様が施設主治医を希望されており、毎月2回往診に来て頂いている。利用者様の希望が有れば、入居前の医院を診されている方も居ます。	3名の利用者は今までのかかりつけ医を受診している。他の方は入居時に本人、家族の同意を得て近くの医療機関に主治医を変更している。薬は看護師が近くの薬局まで取りに行っている。主治医には看護師を通じてバイタル等の必要なことを伝え、家族にはメール等で結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間体制で連絡・相談出来る様になっており、看護師休日でもその日の出勤者対応で緊急受診する事も有る。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 城山の杜1丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	看護師・ケアマネが中心となり情報交換を行い病院関係者との関係構築を行い、介護職員にも情報提供して共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時も本人・家族に意向確認を行い、終末期を迎えた際にも、再度家族へ確認している。主治医からも説明して頂き、その時々で看護師も立会い、可能事、不可能事も伝えている。ケアカンファレンスを必要時に開催して、情報共有して支援に努めている。	重度化した場合における対応の指針を作成しており、入居時に本人、家族等に説明している。点滴、経管栄養、吸痰等の処置が常時必要な状態になった場合には事業所での看取りは難しいと考えているが、それ以外であれば支援しており、職員である看護師も24時間待機態勢で臨んでいる。昨年は3人の方の看取りを行っている。職員の精神的負担軽減に向けた内部研修を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	簡単なマニュアルがいつでも回覧可能になっておりマニュアル更新も看護師が実施している。全体会議時に看護師から講習予定で有る。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間2回の避難訓練と風水害避難訓練を実施しており近隣方々にも訓練参加を頂いている。	ハザードマップ上で津波や洪水の浸水想定区域とはなっていないが、土砂災害警戒区域となっており、風水害避難訓練として避難時の持ち物を準備し避難先まで車で避難している。初夏には消防署立会いで火災避難訓練を行っている。近くの方が利用者の見守り役として協力している。発電機や反射式ストーブ、カセットコンロ、3日分の非常食等を備蓄し、防災委員会がチェックを行っている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時やトイレ時等、プライバシー保護に努めて気を配り、言葉使いが雑にならない様に注意している。	利用者に否定的な言葉を使ったり、スピーチロックがないように心がけている。排泄が自立している利用者は鍵をかけて用足することも多く、職員は戸の前で待つようにしている。書類等は利用者の目の届かないところで保管し、契約書等の書類は事務室で保管している。	
----	------	--	---	--	--

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜1丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴日等は確定しているが拒否が有った際は日にちをずらす等、柔軟に対応しており、その日の服装も嗜好を聞きながら準備している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかなスケジュールは有るが、無理強いせずに、その方のペースで過ごして頂く様に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	爪切り・髭剃り等介助したり、訪問理美容を取り入れ身嗜みを整えている。嗜好の衣類を着用して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食物や誕生日に食べたい食物を聞き取り提供しており、キッチンカーを活用しておやつ等楽しんで貰える様に支援している。	調理委員会で作った献立を参考にしながら調理している。利用者は米ときや野菜の皮むき、盛り付け、食器洗い、拭きなど行っている。茶碗や箸、湯呑等の食器は利用者の持ち込みとなっている。栗や松茸、トウモロコシや山菜等旬の物を取り入れた食事や誕生会に希望の物を皆で食べたり、夕涼み会にはキッチンカーでおやつを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて、形態や形状・量を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛け、一部介助を行って清潔保持に努めている。その方に適した歯磨き粉を使用する等、カンファレンスで話し合い決定している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、トイレ声掛けや誘導を行っている。出来ない所の介助を行っている。利用者様に適している排泄用品等もカンファレンスで話し合い、見直しも行う事で快適に過ごして頂ける様に努めている。	利用者の状態に合わせてズボンの上げ下げを手伝ったり、尿取り等の汚れの確認と交換をお手伝いしたりしている。便秘予防の為、体操や散歩、廊下を歩くなど身体を動かしたり、朝牛乳を飲むようにしている。観察の上で処方された下剤を飲んでいただくこともある。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜1丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	加齢に伴い、ADL低下、食事量低下等で便秘傾向になるので、毎朝の体操、水分補給、体を動かすレク活動を取り入れているが、どうしても便秘になる方も居るので、その際は看護師に報告相談して、下剤を服用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と時間は決定しているが、それに拘らず、柔軟に対応している。	週に2回、月～金曜日の午後を基本に入浴できるようにしているが、希望があればそれ以上に入浴できる。利用者同士での入浴も可能であり、ゆったりと湯舟につかりたい方には職員は脱衣所で待つなど、ゆったりと入れるように気遣っている。異性介助が嫌な方や濡れた床マットをその都度替えるなどの配慮も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々生活習慣を大切に、日中傾眠されている際は、声掛けして臥床休息して頂いている。就寝時も個々のペースに合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイルに説明書が有り、いつでも確認出来る様になっている。誤薬防止する為にダブルチェックも実施して内服時に飲みこぼしが無いか確認している。現状は誤薬事故は防止出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割確定していないが、食事前後の挨拶・レク活動でリーダーシップを取れる様に、同じ方ばかりにならない様に努めている。個人で自販機から飲み物購入したり、食材買出し出かける際は嗜好品を依頼され購入している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩好きな方は職員と一緒に散歩に出かけている。家族との外出も通院介助や家族からの希望で外出している。	中庭に植えた花や野菜に水遣りをしたり、誘い合って散歩し、季節には桜や紅葉を見にドライブし、わらび採りにも出かけている。ドライブ帰りに外食を楽しむこともある。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：グループホーム 城山の杜1丁目

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を管理して飲み物を購入している方も居れば、預り金として事務所に預けて、必要物品や嗜好品等を購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	2名が携帯電話を所持し、いつでも家族と連絡を取り合っている。家族の了解を得ている方には希望があれば、電話を行える様になっている。手紙を書く方は居ない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓を心掛けている。観葉植物を置いたり、季節を感じて頂く様にレク活動にも取り入れて、壁面等に飾り付けている。	1丁目と2丁目はホールの壁で仕切られており、ユニットごとに過ごしている。室内は明るく、エアコン、加湿器が設置され快適な温度である。壁面には利用者手作りの葡萄やきのこ、菊の花などがきれいに飾られ、季節感が感じられる。軒下には干し柿がつるされ、中庭には、ミニトマトや青じそ、ネギなどの野菜や花が育てられている。モップ掛けや玄関掃きは利用者も一緒に行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先に個人用の椅子を置いたり、共有スペースにソファを置いたりして、自由にくつろげる様に配慮している。自室でTVを見たり、臥床休息している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が自宅で使用していた家具を持参頂いたり、写真等持参頂いて飾ったりしている。	居室には洗面台とクローゼット、エアコンが備え付けられている。利用者は、レンタルベッド、椅子、衣装ケース、テレビ、位牌等を持ち込んでいる。室内の配置は利用者と相談の上で決めており、植物の鉢を置いたり、手作りの桌の作品等を飾っている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレ・居室に名前を付けて分かりやすくしている。		